

課題名	当院 ICU 入室患者の退院時転帰に関連する因子の検討
承認番号	2024-23 番
研究機関名	横浜市立みなと赤十字病院
研究責任者	所属 リハビリテーション科部 氏名 加納 可奈子
研究期間	(西暦) 2024 年 10 月 ～ (西暦) 2026 年 3 月
研究の意義・目的	集中治療室(Intensive Care Unit ; ICU)入室によって、入院以前と比較し日常生活動作 (Activities of Daily Living ; ADL)能力、そして生活の質(Quality of Life ; QOL)が低下する患者様が数多く存在しています。そのため元々ADL が自立していた患者様が、療養型病院や介護施設への退院を余儀なくされることも少なくありません。ICU 退室後の患者様の予後の改善のために、ICU 入室後から早期のリハビリテーションの介入が有効とされています。早期リハビリテーションの主要な目標は、自宅退院や自宅退院を見据えた転院ですが、それらの転帰に関連する因子は十分に明らかとなっていません。そこで、本研究では当院の ICU 入室患者様の退院時転帰と関連する因子を明らかにすることを目的としました。
研究の方法 (対象期間含む)	2022 年 4 月から 2024 年 3 月の間に横浜市立みなと赤十字病院の ICU 病棟に入室し、かつ人工呼吸器を 48 時間以上装着した 18 歳以上の患者様を対象とし、診療録の記載をもとに後ろ向きに調査を実施します。入院以前に障害高齢者の日常生活自立度ランク B 以下(寝たきり)であった患者様、末期・終末期の状態にあった患者様、中枢神経疾患のあった患者様、ICU 滞在中に亡くなった患者様は対象としません。 退院時転帰を、「自宅退院とリハビリ転院」、「療養型病院と施設転院」の 2 群に分類し、退院時転帰と関連する因子の分析を行います。
試料・情報の利用目的及び 利用方法 (匿名加工する場合や他施設へ提供 される場合はその方法を含む)	当研究では、診療録の記載を基に後ろ向きに調査を行います。そのため、患者様が特定されないよう患者様のお名前やカルテ番号を当研究固有の番号に置き換えて管理します。研究用の番号と患者さんを紐付ける表として対応表を作成し、データとは別に保管します。対応表の管理責任者を研究責任者である加納可奈子とします。抽出したデータは本研究のみで使用し、他の目的には使用しません。
利用又は提供する 試料・情報の項目	対象となる患者様の性別、年齢、BMI、APACHEII スコア、ICU 入院時診断名、人工呼吸管理期間、ICU 入室時から端坐位開始までの日数、ICU/HCU 退室時の functional status score for the ICU(FSS-ICU)、入院日数、退院時転帰です。APACHEII スコアとは ICU に入室した患者様の 24 時間以内の呼吸や循環、意識レベルの 12 指標についての最悪値を acute physiology score (APS)として、これに年齢と慢性疾患のスコアを加えたものです。これは患者様の病態の重症度を客観的に評価するためのスコアです。また FSS-ICU とは寝返り、起居動作、端坐位、立ち上がり動作、移動動作の 5 項目で構成されており、ICU における患者様の ADL 能力を評価するためのスコアです。
試料・情報を 利用する者の範囲	当研究の責任者、研究分担者に限ります。 研究責任者：横浜市立みなと赤十字病院 リハビリテーション科部 加納可奈子 研究分担者：西山未南、岩本智美、松本卓(リハビリテーション科部)、永田功(集中治療部)

試料・情報の管理における 責任者の氏名又名称 (当院及び提供先)	横浜市立みなと赤十字病院 リハビリテーション科部 加納 可奈子
問い合わせ先	当研究に自分の情報を使用してほしくない場合等のお問い合わせ 〒231-8682 神奈川県横浜市中区新山下 3-12-1 横浜市立みなと赤十字病院 リハビリテーション科部 加納 可奈子 TEL:045-628-6100 (代表) / FAX:045-628-6101